豊田市障がい者総合支援センター

平成27年度

結

平成27年度

活動報告・研究報告「結」

平成29年 3月発行

豊田市障がい者総合支援センター

http://www.fukushijigyodan.toyota.aichi.jp/

社会福祉法人　豊田市福祉事業団

豊田市障がい者総合支援センター「結　平成27年度」を作成いたしました。

平成17年度から、総合支援センターの各施設がその年度に行った取組みの一つを取り上げ、紹介させていただきました「紀要」を、平成24年度版からは手に取っていただきやすい形に一新いたしました。また、豊田市福祉事業団のホームページにも掲載していく予定です。多くの方にご覧いただき、少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

私たちは誰かとつながって生きています。

ひとりで悲しんでいるとき
　誰かに話を聞いてもらえたら、少し楽になるかもしれない
うれしいことがあったとき
　誰かに「よかったね」といってもらえたら、もっとうれしくなるかもしれない
ひとりではできないことも
　誰かと力を合わせれば、できるかもしれない

利用者の方と地域の方々が結ばれることで、お互いがハッピーになれたらいいなと考えながら、私たちは毎日の支援を行っています。
私たちの支援を地域の方々に少しでも知ってもらいたい。
その思いを「結（ゆい）」という言葉にのせて発行いたします。

（表紙の題字は、暖　土屋麻美さん）

豊田市障がい者総合支援センター

豊田市障がい者総合支援センターとは、障がいのある方の自立及び社会参加を支援し、豊かな地域生活の実現を図るため、豊田市が設置した施設です。「障がい者就労・生活支援センター」「けやきワークス」「第二ひまわり」「暖」の４部門で構成しています。

豊田市から指定管理者の指定を受けた豊田市福祉事業団が、障がい者総合支援法に規定する障がい福祉サービス事業と、豊田市から委託された就労生活支援事業などを行っています。

目 次

けやきワークス …… 1
　施設外就労について
　　～東海環状自動車道高架下の草刈りの仕事～

暖 …… 3
　新聞サークル『だんだん』
　　～ 感謝の気持ちを皆さんに ～

第二ひまわり …… 5
　豊田マラソン
　　～豊田マラソン参加を通して～

障がい者就労・生活支援センター …… 7
　福祉従事者研修
　　～福祉従事者の児者一貫支援のために～

施設外就労について
～東海環状自動車道高架下の草刈りの仕事～

はじめに

けやきワークスには、Do（軽作業）、プリント、喫茶・ベーカリーの３部門があります。今回は、Do の仕事を紹介します。

Do では、自動車関連会社の下請けの仕事や市指定ごみ袋のパッケージの仕事のほか、施設外就労も行っています。施設外就労とは、企業と就労支援事業所が契約を交わし、支援員がついて利用者の方が施設外で作業を行い、作業受託費を受け取る就労形態です。けやきワークスでは平成２０年度から豊田市公設地方卸売市場で野菜のパッケージの仕事を行っています。また、平成２５年度から中日本高速道路株式会社と契約し、東海環状自動車道高架下（猿投地区）の草刈りと清掃を年２回（６月と１１月頃）行っています。この仕事は、中日本高速道路株式会社の方が豊田市内の就労支援事業所に草刈りの仕事をしてもらいたいと、豊田市役所を通じて説明会が行われ、そこに応募したことがきかっけで始まりました。

今回は、この高架下草刈りの施設外就労の仕事内容を紹介します。

１　草刈りの仕事の流れ

まず、中日本高速道路株式会社から指定された期間の天気予報を見ながら、５日程度の草刈りの日程と作業メンバーを決めます。

その後、以下の順番で作業を進めます。

① 草を刈る前の写真を撮影する。
② 職員が草刈り機で刈った草を利用者が熊手で集める。
③ 熊手を使って集めていく草を６～７つの山にまとめる。
④ ③と同時進行で、不法に捨てられた空き缶や鉄くず、ペットボトルなどのごみを拾う。
⑤ 指定された場所の周囲や柵の周りの掃き掃除、側溝の掃除をする。
⑥ ①で撮った位置と同じところから作業完了後の写真を撮影する。
⑦ 中日本高速道路株式会社の方に作業完了報告をし、後日立会いのもと作業の検査をして終了。

草刈り後の草集めの様子

集められた草の山

２　草刈りの仕事で気をつけること

・作業時間が決まっているため、期間内に作業が終わるよう作業日時を調整する。
・安全に作業を行うため、服装は長そで、長ズボン、長靴、軍手を着用する。
・草刈り機を使用している職員の近くで利用者が作業しない。安全な距離を保つ。
・安全かつ決められた作業が完了できるよう、職員は利用者の方に確実に伝わる的確な指示をする。
・利用者の方には、わからないことがあったら、必ず職員に確認するように伝えておく。
・熱中症にならないよう、適度に休憩を取り、水分補給をする。
・作業前、作業後の写真撮影がスムーズに行えるように撮る場所と方向をメモしておく。

作業前の様子

作業後の様子

３　草刈りの仕事で感じたこと

平成２５年度に仕事を始めたときは、どのように仕事を進めていったらよいのか迷うこともありました。草集めの作業では、山をたくさん作ってしまい、中日本高速道路株式会社の方から注意を受けたこともありました。雨が降ると草が水分を含んで重くなり、草集めが大変になるので、天気予報と作業の進み具合をこまめに確認し、雨が降りそうなら作業工程を早めるなどの工夫をしてきました。

回を重ねるごとに利用者の方から「草刈りの仕事そろそろだよね」「僕は次も行けますか？」「大変だけど頑張ろう」「また行きたいです」などの声が聞かれるようになりました。

体力的に厳しい仕事ですが、利用者の方は意欲を持って一生懸命働いています。Do の作業場内で行う仕事も意欲的に取り組んでくれていますが、いつもと違う特別な仕事という意識で利用者の方がこの仕事を行っていると感じます。

こうした外部での仕事はとても貴重な経験になり、利用者の方の仕事に対するやりがいや充実感につながるものと感じています。

新聞サークル『だんだん』

～感謝の気持ちを皆さんに～

暖の新聞サークルは、重度の障がいがあっても安心して利用できる場所を紹介すること、暖を多くの人に知ってもらうことを目的として、新聞をつくっているサークルです。平成１６年度から活動を開始しました。

新聞の名前は『だんだん』です。施設名の「暖（だん）」と、出雲弁の「ありがとう」という意味を含んでいます。できあがった新聞は、取材させていただいたお店や近隣の交流館などに置かせてもらっています。

サークルメンバーは、自分の得意なことを役割として取材活動をします。例えば車いすの人は「車いすでの利用はしやすいか？」「お店の雰囲気はどうか？」、インタビューできる人は「店員さんがどんな人か？」「おすすめは何か？」など、それぞれの視点で取材します。

新聞ってどうやって作るの？

① **取材先をサークルメンバーで検討します。**
「どこに取材に行くか」インターネットの画面や雑誌の切り抜きをスクリーンに映し出して話し合います。
「いつ誰が取材に行くか」年間計画を立てます。

② **取材先を訪問します。**
メンバーそれぞれが、担当になった取材先を訪問します。取材交渉や日程調整は支援者が行いますが、当日の取材はメンバー（の視線と表情）に主導権をゆだね、支援者は通訳者とカメラマンに徹します。バリアフリーチェックと、店舗や施設の担当者へのインタビューは欠かせません。

③ **原稿を作成します。**
取材した情報をしっかり伝えられるよう、
メンバーの表情豊かな写真をたくさん使って、記事を構成していきます。

④ **新聞を配達します。**
完成した新聞は、サークルメンバーが、取材に協力いただいたお店や、地域の交流館へ持っていきます。

新聞を見てみたい！

『だんだん』の記事の１例。※『だんだん』は豊田市福祉事業団のホームページからご覧いただけます。

桂馬記者の駅取材日記　～上前津駅～

桂馬記者が様々な駅をめぐり、徒然なるままに記事を書く、その名も「桂馬記者の駅取材日記」！！
今回は大須商店街の東の玄関口となる、名古屋市営地下鉄鶴舞線の「**上前津駅**」を仲間の那須さんを誘って、取材してきました。

出発！！

名鉄梅坪駅より電車に乗り、上前津駅へ向かいます。シルバーの電車カッコいい！！

電車内の車いすスペース

梅坪から上前津方面へ向かうときは、一番先頭の車両に車いす専用のスペースがありました。

上前津駅　エレベーター

エレベーターを２回乗り継いで地上へ出ます。帰りは３回乗り継いでホームへ。

上前津駅　多目的トイレ

改札内には２つも多目的トイレがありました！混雑しているときでも利用しやすいですね。

まとめ

新聞サークルの活動を通じて、地域の人や暖へ来た人に「新聞見たよ！」「新聞に載ってたところに行ってみたいから詳細を教えて」と、声をかけていただけるようになりました。取材先の方との出会い、新聞を見てくださった方との出会いなど、この活動は多くの人に支えられ繋がりを築くことができたと実感しています。

また、暖へ来たことがない人にも、暖に通っている人のこと、どのような障がいがあっても役割を持って生活していることを知ってもらえるきっかけになっていると思います。

利用者と支援者の二人三脚で、これからも多くの人と出会えることを楽しみにしています。もし、**「取材してほしい！」**というお店や施設がありましたら、いつでもご連絡ください。
つぎは、あなたのおすすめスポットへ『だんだん』サークルメンバーが伺います！

豊田　マラソン

～豊田マラソン参加を通して～

第二ひまわりでは、毎年秋に開催される豊田マラソンにたくさんの利用者が参加をしています。この豊田マラソンは、普段の日中活動で取り組んでいるウォーキングとジョギングで培った体力、集中力を発揮する場にもなっています。参加する利用者が持っている力を社会の場で試す機会を設けると共に、そこでの経験を利用者自身の生活の励みにするためにも、重要な行事の一つです。

本番直前には第二ひまわりホールで「マラソン壮行会」を開きます。2km,4km,10km の走行距離別に、各チームが本番に臨む意気込みを発表します。

出場回数を重ねて高まる意識

継続した取り組みによって、体力面と精神面の両方を培い、落ち着いて走ることができるようになりました。

出場経験を重ねるごとにそれぞれの意識が高まり、練習にも力が入ります。本番に向かって「一生懸命走るぞ」「みんなのペースについていこう」と、仲間と支え合いながら完走目指して頑張っています。

緊張するけど
練習の成果を
発揮して走り
ぬくぞー！！

家族の理解、協力

出場回数を重ねていく中で、利用者の家族の意識も年々高まってきていると感じます。

豊田マラソン参加当初は、「無理」「できない」「本当にやれるのか」など大きな不安が家族にあったと思います。家族の不安が少しでも軽減できるように、練習の段階から利用者の様子を伝えました。そして、本番当日の真剣に走っている姿を見て、家族の不安が消えていきます。「信じられない」「感動した」「パワーをもらった」と、家族の自信にも繋がりました。

「やればできるんだ」「次はもっとやれる」から、さらに「共に走りたい」「体験したい」「協力したい」という意見が増え、マラソン参加への理解が深まりました。

まとめ

第二ひまわりでは、

のん気　…心にゆとりを持ちながら
根気　…何事にも最後まであきらめない
元気　…どんなときでも前向きに
やる気　…大切なのはなんでも挑戦すること

の４つの**キモチ**をモットーに、利用者一人ひとりが可能性を広げ、社会の中で充実した生活を送れるように支援を行っています。利用者が社会と繋がりを持ち、自分の可能性を広げるきっかけとなってもらえるように、今後も豊田マラソン参加の取組を継続していきます。

福祉従事者研修

～福祉従事者の児者一貫支援のために～

1　福祉従事者研修の目的

発達障がい者支援法が施行されて 10 年が経過しました。発達障がいのある方を各ライフステージの関係機関で支援できる体制は充実しつつあります。しかし、ライフステージの節目（こども園から義務教育、学生から社会人へといったライフステージのつなぎ目）の連携が課題になっています。

就労・生活支援センターの年度ごとの新規登録者をみると、発達障がいの方の割合は 20%から 40%です。

福祉従事者研修は、発達障がいの方が日常生活で感じている生活しづらさや苦手なことを多くの人に知ってもらう機会として、また、将来を見据えたライフステージ毎の支援者の連携とスキルアップを図ることを目的として実施しています。

2　平成 27 年度福祉従事者研修の概要

日　時　平成 28 年 1 月 23 日（土）午前 10 時 30 分から 12 時 30 分
場　所　豊田市福祉会館ホール
講　師　豊田市福祉事業団理事長　髙橋　脩
テーマ　「誰もが暮らしやすい地域づくりのために」
　　～発達障がいのある方のサポートを考える～

3　研修参加者の声

来場者数は約 280 人でした。
当日、研修参加者にアンケートをお願いし、216 人に回答をいただきました。

①　参加者の属性

福祉施設関係者が 75 人と最も多く、次いで当事者･ご家族 38 人、こども園関係者 36 人でした。学校や行政、医療関係者の方、民生委員、放課後等デイサービス職員の参加もありました。

福祉、療育、教育、行政、医療と発達障がい児者支援に携わる各分野から参加があったことから、このような研修を通じてライフステージ毎の支援者が顔の見える関係になれば、切れ目のない連携ができる可能性を感じました。

また、民生委員の方の参加もあり、地域で支えてくださる方たちにも「発達障がい」は関心のあるテーマであることが伺えました。

② 発達障がい児者と接する機会

	福祉施設	行政関係	こども園	学校関係	民生委員	当時者	その他
よくある	66	4	25	16	1	28	13
時々ある	9	8	11	3	9	8	11
全くない		1				1	

③ 参加者の感想

・支援者は黒子役、サポーターであって本人が主役である。本人中心の自己決定、自己実現、ライフステージにあった支援が必要だと感じました。（福祉施設関係者）

・発達障がいの方と接する中で苦慮することもあるが、「誰が主役なのか」を今一度考えながら、支援したいと思います。（福祉施設関係者）

・「発達障がいの人たちも、周りの人々の支えによって素敵な人生を送れるのです」という言葉が心の支えになりました。（当事者、ご家族）

・長い見通しを持った支援の仕方をわかりやすく教えていただき、安心できました。（こども園、幼稚園関係者）

・「障がい」でなく「個性」として受け止め、ありのままのその子の姿を受け止めるという基本的な考えから改めなくてはいけないと気付きました。その子の気持ちに寄り添いながら、良いところをたくさん見つけて伸ばしていけるような援助を考慮していきたいです。（こども園、幼稚園関係者）

・ライフステージを考え、同じ思いを持って支援することが大切だと分かりました。将来を見据えるためには、具体的な関係機関の情報やそこでできることなどをもっと学ぶことが必要だと思っています。（学校関係者）

4　まとめ

豊田市内の関係機関の方々に、支援者が将来を見通して切れ目のない連携をする必要性とそれぞれのスキルアップを啓発できるような研修を、今後も企画していきたいと考えています。